

日本の宇宙産業を 切り拓く「宇宙商社」

JAXAの一部事業の民間開放を機に、事業拡大を加速。
宇宙産業の成長と、その民間企業への展開を視野に入れ、
「宇宙産業における総合商社」になることを目指している。

2017年9月設立のSpace BD株式会社は、「宇宙商社」を標榜するスタートアップ企業だ。宇宙商社とは聞き慣れない言葉だが、ロケットや人工衛星を開発・製造するのではなく、例えばロケットによる衛星打ち上げ枠と衛星開発会社をマッチングするなど、宇宙産

業で需要と供給を結びつける、新たなビジネスモデルの確立を目指す。社名の「BD」は「Business Development」の略で、宇宙ビジネスを開発するという意味を込めた。

代表取締役社長を務める永崎将利氏が総合商社を退社し、独立起業を決意したのは、「強い日本の産業をつくることに貢献したい」という思いからだった。具体的な事業対象を模索する中で、現在のリード投資家であるファンド会社のゼネラルパートナーの一人

である赤浦徹氏と出会い、宇宙ビジネス参入のためのアイデアを得た。「チャレンジする人がかっこいいと言われる世の中にしたい」という思いもあった。それには自分自身が宇宙産業という難題に挑戦すべきだと考え、参入を決意した(永崎社長)。

これまで日本の宇宙産業は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)など官需によるものが95%以上を占めていた。その中で18年2月、JAXAは国際宇宙ステーション(ISS)の日本実験棟「きぼ

う」の利用事業について、初めての民間開放として超小型衛星放出事業の事業者を公募する。同年5月、同社は設立わずか数カ月にして事業者の1社に選定された。

超小型衛星放出事業とは、大学の研究機関やベンチャー企業などが開発した超小型衛星(最小で10cm角程度)を、年に4回程度運航される補給船で地球からの高度400kmに位置するISSまで運搬し、そこから宇宙空間に放出するというもの。同社はJAXAに使用料を支払い、打ち上げに伴う附帯業務代行などのサービスと共に、利用権を研究機関などの顧客に販売する。

決め手となったのは 迅速できめ細かな営業力

同社が事業者に選定されたことについて永崎社長は、「JAXAが初の民間開放にあたって業界に変革を求めていたのではないかと推測する。衛星の放出枠を販売するには世界中の企業や大学に営業をかけることが必要であり、経営者自らがフットワークよく駆け巡ることのできる同社への期待を込めた選定だとみている。

実際に、永崎社長は国内外問わず宇宙関連のカンファレンスに常に顔を出し、積極的に自社をアピールして、短

期間に超小型衛星の放出契約を着々と積み重ねた。そうした努力・成果が評価され、19年3月にはJAXAが第二弾の民間開放として公募した「きぼう」の船外実験装置「i-SEEP(アイシーブ)」の唯一の利用事業者にも選定された。

19年11月現在、同社が契約し、放出待機中の衛星は13機。そのうち1機は東京大学から受注した案件で、11月20日にISSから放出された。

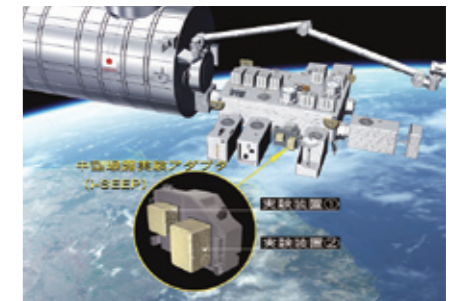
小型衛星の打ち上げ手段にはISSからの放出のほか、大型ロケットで大型衛星と一緒に打ち上げる方法や、小型ロケットを利用する方法がある。同社は中期的にはロケットによる打ち上げ手段も確保して、衛星打ち上げサービス会社として世界のトップグループに入ること目標としている。

一方で、JAXAが持つ宇宙飛行士向けのトレーニングメソッドを、学校教育や企業の人材開発に応用するプログラムとしてZ会グループと共同開発し、20年4月の発売を目指している。

永崎社長が目指すのは「宇宙産業における総合商社」。部品の輸出入代行、あるいは海外の宇宙開発機関に対する試験装置やトレーニングシステムの販売なども視野に入れており、宇宙産業における新たなプレーヤーとして大きな伸びしろが期待される。



「きぼう」船内から見たロボットアーム。「きぼう」だけが持つ同アームを使用して超小型衛星を宇宙空間に放出する(写真提供: JAXA/NASA)



「きぼう」の「i-SEEP」利用イメージ。宇宙環境での機器の使用実証試験などに使う(写真提供: JAXA)

Corporate Profile

代表取締役社長 永崎将利
所在地 東京都中央区日本橋室町1-5-3
設立 2017年9月
<https://space-bd.com/>



「衛星打ち上げサービスで、世界のトップグループに入るのが最初の目標」と語る永崎将利代表取締役社長。オフィスは宇宙ビジネスのイノベーションを目的としたコミュニティベース「X-NIHONBASHI」内にある

キャピタリストの眼

日本の宇宙産業における 民間参入のトップランナー

Space BDは、永崎社長を中心とした圧倒的なスピード・営業力が魅力のチームです。民間による宇宙ビジネスの急拡大が見込まれる中、技術者が開発に集中できる環境をワンストップで提供できるプレイヤーの存在は必要不可欠だと感じます。

上述のインテグレーション支援に欠かせない優秀な人材も続々と集まっており、今後、現在の主力事業である超小型衛星放出に加え、大型ロケット相乗り、小型ロケット利用にまで事業を拡大し、宇宙産業の中核を担う企業として世界に飛躍する事を確信しています。



SMBCベンチャーキャピタル株式会社
投資営業第一部次長
中野哲治